

令和2年度ないえ福祉会 事業報告

令和2年度における法人の事業・予算執行については新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが、概ね計画的に実施することができました。ハード面の事業では、本体施設の屋上防水改修工事やグループホームのスプリンクラー設置工事等も無事完了しています。また、令和2年度に申請を行っていた社会福祉法人清水基金の助成も決定し、3年度グループホームあじさいの建替え工事に着手できることとなりました。

新型コロナウイルス感染症の影響では、各事業で外出の自粛や行事等の中止、通所事業の一時休止など様々な影響を受けましたが、感染者を出すことなく一年を乗り切ることができました。また、北海道の介護職員等派遣事業では、クラスターが発生した事業所からの応援要請を受け、職員2名を派遣し支援活動を行っています。派遣により学んだ知識や対策等は、事業所内研修で職員に周知するなど法人内で知識を深めることにもつながりました。派遣に協力してくれた職員には感謝しています。道内の社会福祉施設でも複数の事業所でクラスターが発生していることから引き続き感染対策に力を入れていきたいと思えます。

施設入所事業では、定員40名に対して利用者40名の定員を満たしていますが、9月末より男性1名が長期入院中となっています。2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響がある中、オンラインでの研修参加を進め、10月から重度障害者支援加算を算定することができるようになりました。今後も研修等への参加を積極的に進めていきたいと思えます。設備面では、本体施設の屋上防水改修工事や非常放送設備の更新、感染予防対策として空気清浄機能付きエアコンの設置や感染対策備品の備蓄等を行いました。感染症の流行により帰省や外出等自粛せざるを得ない1年ではありましたが、令和3年度も感染症を含めた災害等に備えながら利用者が安心して生活できる様に環境整備等を進めていきたいと思えます。

生活介護事業では、昨年同様40名の定員に対して47名の利用者で活動を行ってきました。今年は、新型コロナウイルス感染症の流行により活動の制限や縮小を余儀なくされた1年となり、道からの通知により一時的に通所を自粛した期間もありました。再開後も在宅者と入所者と活動の場所を分けて行うなど今までに例のない活動の形態を取らざるを得なくなりましたが、その中でも利用者の精神安定のため個々のニーズを少しでも叶えるよう聞き取り等を行いながら活動してきました。散歩は、感染対策の徹底をして施設内外で行うことができましたが、その他の日中活動については集まる事が難しく個別または少人数で距離を取りながらの対応となりました。行事についても中止や縮小などの対応が必要となりましたが、テイクアウトによる食事会への変更や地域の感染状況を見ながら分散して外出するなどの工夫を行ってきました。令和3年度も感染状況を踏まえながらできるだけ工夫をして進めていきたいと思えます。

就労継続支援B型事業では、令和2年9月に椎茸ハウス1棟の土間均し工事を行いました。ハウス内が平坦になったことで利用者が安全に作業参加でき、栽培に必要な湿度も保て

るようになりました。12月からは新型コロナウイルスの感染予防策を徹底した中で、分散通所という形態を取り入れて活動しました。少人数、短時間ではありましたが、職員同士連携して利用者の通所作業の確保に努めました。椎茸事業では、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、外部へ販売に出ることができなかったことや参加している行事等も中止となったため、売り上げが落ち込みましたが、生協への出荷売り上げが伸びたことや委託作業の収入が増えたことで全体では黒字で終わることができています。

就労移行支援事業では、利用者の安全を第一に考え、令和2年2月下旬から6月中旬までみみずくを閉店休業しました。その後はテイクアウトのみでの営業となりましたが、商工会の飲食店利用拡大促進ないえテイクアウト・宅配事業に参加したことや、奈井江町役場やグループホーム、職員の方々にランチ注文などで協力していただき、トータルでは売り上げが落ち込むことなく終わっています。職場開拓や就職に向けた職場実習はなかなかできず、もどかしい1年となりました。

就労定着支援では、状況に合わせて職場訪問し、離職者が出ることなく一年を終えています。

共同生活援助事業は、4月に体験宿泊を経て入居となった高等養護学校卒業生を迎え、40名でスタートしました。新型コロナウイルスの影響も大きく、男性棟の空室には入居希望の相談があっても対応が難しい中で、できる範囲でとタイミングを見て見学者や体験宿泊者の受け入れを継続しました。令和3年度には新たに高等養護学校卒業生の入居が決まっています。

新型コロナウイルスの影響で外出自粛が求められた一年、日中活動サービス事業所への通所も状況に応じて制限がかかり、共同生活援助事業所としては、徹底した感染対策に加え昼食提供や買い物代行等、支援量が急増し、目まぐるしい毎日が続きました。ベストを尽くそうという勢いから、長く続けられる支援へ切り替えていく工夫をしながら、チーム力を高めて入居者を支え今に至りますが、入居者も支援者もストレスが多い中で、励まし合って乗り越えられたことには心から感謝しています。入居者も当初は行動の制限に大きな不満がありましたが、自身で情報を収集する、連絡をよく聞いて理解しようとするそんな姿勢を見受けるようになり、油断せず継続して「ウィズコロナ」時代を乗り越えていきたいと思っています。

また、令和3年度計画のグループホーム新築工事に向け、春に清水基金の助成事業へ申請をし、2月に助成決定を受けています。入居者がより豊かな生活を送れるようにと願い、活きた計画を進めていきます。

居宅介護事業は、新しい体制に不安を感じながらも心新たにスタートしてまもなく、空知総合振興局の実地指導を受けることになり、結果、一部条件を満たさない加算を算定していると指摘され、過去5年分を過誤調整するよう指示を受け、多額の返還をしました。その後は関係書類を精読し、事業所訪問で学び、制度を正しく理解した上で、条件を満たす体制を整えて再び加算を算定しています。不安が煽られる事態に、一同非常に落ち込みましたが、改めて制度を勉強する、団結力を深めるといった機会であったことに違いはなく、励まし合って事業を継続する日々でした。

また、新型コロナウイルスの影響が大きく、サービス利用の要望に対応できない場面が大変多い一年でした。その中でも、知恵を出し合い工夫しながら、特に健康保持のためのサービス提供は継続し、利用者には喜んでいただきました。感染対策をしても不安が大きい中で、待っている利用者のためにサービスに出かけていくヘルパーには本当に感謝しています。このような状況にも、過誤調整分を除き、赤字決算にはなりませんので、今後も状況を把握しながらできることを続け、皆さんの要望にお応えしたいと思います。

共同生活援助事業所との連携は強化し、安定したサービス提供につながることができました。共同生活援助利用者の日中活動系サービスの利用に制限がかかったことから、移動支援提供時間が保てたことも影響しています。通常の活動ができなくストレスを感じている利用者の心のよりどころとして活躍しました。

短期入所事業については、新規の利用者受け入れはありませんでしたが、相談や養護学校実習生の体験ショートを受け入れを行いました。年半ばからは、新型コロナウイルス感染症の流行により、感染症予防の為、利用者本人や保護者とも相談し自粛して頂き受け入れが殆どない状況でした。今後も緊急時などは利用者本人や保護者と相談させて頂きながら、日中受け入れを行いたいと思います。